

アーカイブズ目録データベースのオンライン公開と横断検索

Archival finding aid available via Internet

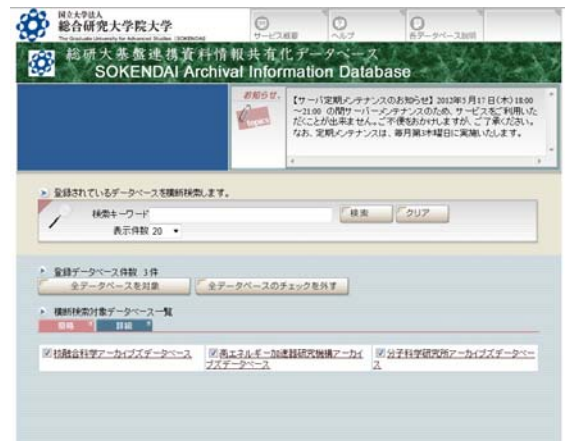
難波忠清¹, 高岩義信², 五島敏芳³, 菊谷英司⁴, 関本美知子⁴, 井口春和¹, 柳生修二⁵, 邊牟木幸子¹, 中村優子⁴, 鈴木さとみ⁶
 核融合科学研・アーカイブ室¹, 筑波技術大², 京大総合博物館³, 高エネ研・史料室⁴, 総研大⁵, 分子研・史料編纂室⁶
 Chusei NAMBA¹, Yoshinobu TAKAIWA², Haruyosi GOTOH³, Eiji KIKUTANI⁴, Michiko SEKIMOTO⁴,
 Harukazu IGUCHI¹, Shuji YAGYU⁵, Sachiko HEMUKI¹, Yuko NAKAMURA⁴, Satomi SUZUKI⁶
 Archives, NIFS¹, Tsukuba Univ. of Tech.², Kyoto Univ.³, KEK⁴, Grad. Univ. for Advanced Studies⁵, IMS⁶

我が国の大学における核融合研究開発の歴史を資料に基づき明らかにしていくことは、社会や他分野の研究者に対する説明責任を果たすためにも、また今後の研究の進展を図るためにも必要不可欠である。特に、「社会的説明責任」と言うときそれは「挙証説明責任」と理解され、そのためには核融合研究の発展を記録文書により跡づけることを可能とするような歴史的資料整備が必要となる。その際、収集・整理された史料等が広く活用されるためには、それらの目録がデータベース化され、適切な検索手段が提供されていることが必要である。と同時に、核融合研究が、広く大学・共同利用研究機関との連携の上で進められており、従って多くの他機関のデータベースと連携した「横断検索」を実施することにより、より広い資料にアクセスすることが可能となる。このような立場から、「自然科学研究系のアーカイブズ目録」としてオンラインかつ横断検索を可能とする方策を模索してきた。

1. クラウド型のサーバーを用いた検索手段の構築

クラウド型のサービスを利用するいわゆる ASP (Application Service Provider) を活用した検索手段を用いて「総研大基盤連携資料情報共有化データベース」として試行的に公開を開始した。出発時点では、目録データを投入したのは、核融合研、高エネルギー加速器研究機構、分子研のみであるが、今後さらに増えることが期待されている。右に示したのは、そのトップページであり、全データベースを対象として横断検索を実施することも、また特定のデータベース（研究機関）を指定して検索実行することも可能である。これは、我々が従来テスト運用を進めてきた国文学研究資料館の「史料情報共有化データベース」と同じアーカイブズ配信システム InfoLib のクラウド版である InfoLib-ASP を用いており、データ移行は比較的容易に行うことができた。

また、新しい試みとして、幾つかの史料については、その第 1 ページ目の画像ファイルをデータベースの 1 フィールドとして取り込み、利用者に視覚的イメージを提供している。



2. EAD 互換アーカイブズ・データ管理システムの構築を目指した取り組み

電子的検索手段の国際標準 EAD (Encoded Archival Description) に準拠してアーカイブズの史料記述データベースを用いている場合は、その標準に適合したデータ管理・公開システムを利用することのメリットが大きい。そのシステムへ標準を採用している複数のアーカイブズ (史料室) のデータを取り込むことでアーカイブズ資料の横断検索を可能にし、将来その標準が発展して改定される場合にも、それに追隨してシステムのアップグレードが期待できる。

そのような観点から、現在、無償で入手可能であり、アメリカ・アーキビスト協会からも標準システムの一つとして認識されている Archon システムを採用してその利用可能性の研究を行っている。欧米語を基本として多言語化を組み込んではいれるものの、文字および言語構造の異なる日本語の資料を多く含むわが国のアーカイブズ資料の管理に適用可能かどうか自明ではないので、その実践を行いつつ検討を重ねている。この検討は核融合アーカイブズを含む大学共同利用機関のみならず、日本を代表する原子核素粒子物理学者である湯川秀樹、朝永振一郎、坂田昌一の記念史料室と共同して実施している。坂田記念史料室に適用している例を示す。

